



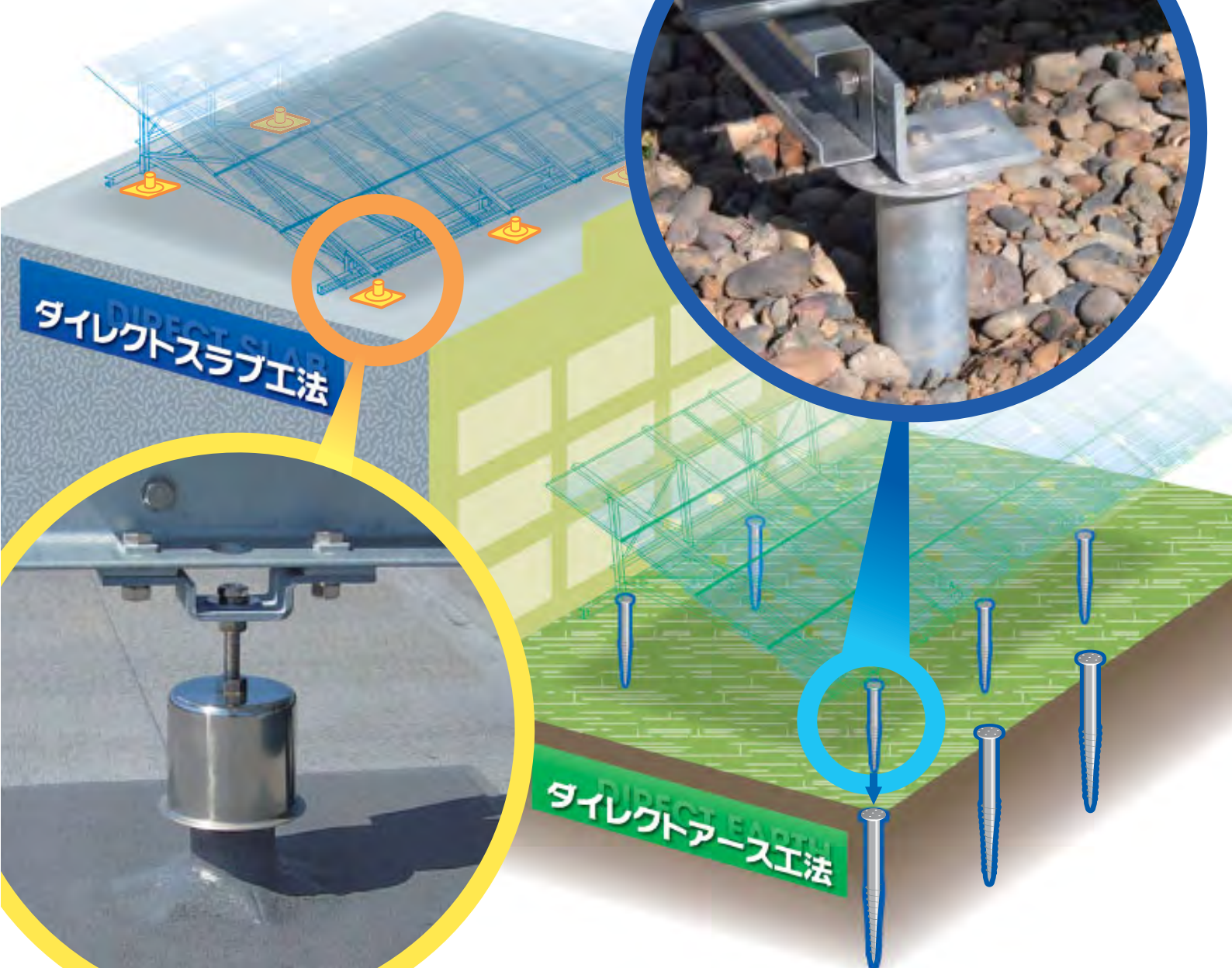
サンコーテクノ株式会社

IR NEWS

第47期 事業のご報告

平成22年4月1日～平成23年3月31日

グラントスクリュー



あと基礎アンカー

特集 ダイレクトスラブ工法 & ダイレクトアース工法

Contents

トップメッセージ
特集
財務ハイライト
セグメント別事業概況
トピックス

トップメッセージ



代表取締役社長

洞下英人

「中期経営ビジョン達成のための基礎固めを継続していきます。」

Q1

当期(平成23年3月期)の概要についてお聞かせ下さい。

A1 当社グループの当期の実績は、売上高が136億2600万円(前期比3.7%増)、経常利益は4億8900万円(同178.7%増)と、増収増益になりました。売上高は目標に届かなかったものの、利益額は、当期より立ち上げたセンサー事業の業務用アルコール測定器など新製品の販売が好調だったことや、原価の削減を進めてきたことで期初の計画を上回る内容でした。

また、当期より、新たに中期経営ビジョン「PLAN 2014」を掲げ、その達成に向けた設備投資や、組織改革・ITインフラ改革などの社内改革を進めています。過去3年間の業績は下降基調にありましたが、ここへきて業績の回復と共に将来への種まきができたことから、社長就任1年目としては及第点と考えています。

Q2

太陽光関連の製品は注目されているようですね？

A2 太陽光発電はクリーンエネルギーとして認知されてきましたが、先の東日本大震災で電力供給の課題が浮き彫りになったこともあり、一段と関心を集めています。そのようななか、当社グループでは以前より太陽光発電に必要なパネルの設置に、電設メーカーや防水メーカーなど苦勞されている方が数多くおられることに着目していました。設置の需要が増えるなかで当社のファスニング技術を活かした新製品・工法(注:詳細は特集P3-4を参照)について予想以上の反響があります。

耐震という建物の構造的な「安全・安心」の分野と、電力源を中心とした「環境」分野に関連していることから、当社グループの太陽光関連製品が注目を集めていると考えます。

経営理念

奉仕は、真価の追求なり
啓発は、未来の追求なり
協調は、繁栄の追求なり

社 是

創り、活かし、満たす
— 人のお役に立つために、
創造提案型企業をめざす —

社 訓

感性と実践力を磨き、
健康で豊かな環境づくりに
貢献します

心の経営とは

私たちの会社が、最も大切にしていること。

それは「心の経営」です。

心の経営とは、「理想は高く 頭は低く 実践は足下から」を基本姿勢とし、その実践を「挨拶と清掃」に求めています。こうした日々の実践を通して活気あふれる職場づくりを目指しております。

「社団法人倫理研究所」の
ライセンス認定企業プログラム
『倫理17000』の第1号に認定



本年3月11日に発生した東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を、サンコーテクノ・グループ一同、心より祈念しております。

Q3

次期(平成24年3月期)の施策についても教えて下さい。

A3

次期の業績計画は、売上面は増収の一方、利益面では減益となっております(売上高145億円、経常利益4億6000万円)。これは、当期に続いて次期も中期経営ビジョン実現のための基礎固めとの位置づけから、投資活動を続けていくためであり、短期の数字に一喜一憂するのではなく「2014年に200億円企業となる」ための中期的なプランに基づいた数字と考えています。

具体的な投資活動ですが、日本国内については、当期より新発売した太陽光発電関連やセンサー製品の伸張が予想されることから土台をしっかりと固めるとともに、新しいマーケットの創出にも注力します。海外戦略としては、タイの工場を充実させ、これを機軸に東南アジア圏での販売強化を考えています。

Q4

次期の注力課題として掲げている人財改革とは具体的にどのようなことですか？

A4

「企業は人なり」と言われるように、企業は人の成長によって器が大きくなると考えています。同じ人財で多くのものを生み出すためには、一人ひとり成長することが重要です。もちろん個々が成長していく

ためには個人の努力だけではなく会社のサポートが必要です。そのために評価制度の見直しや、学べる機会(環境)などを社員に提供し、成長による目標達成の喜びを分かち合いたいと考えています。それが我々の共生であり、人財育成の根本なのです。

社員が成長することで、「PLAN 2014」の実現がより強固になると同時に、さらなる高みを目指すことができるのです。そして会社が大きくなることによって、さらにお客様への貢献や社会貢献ができ、その貢献の喜びが、働くことの喜びに変わっていくことを社員に伝えていきたいと考えています。

Q5

最後に株主・投資家の皆様へのメッセージをお願いします。

A5

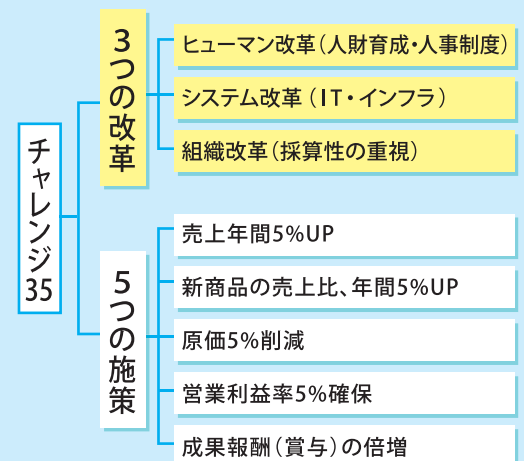
今回の東日本大震災からの復旧・復興に向け、私たちの製品やサービスがお役に立つ機会も増えてくることと思います。すなわち、締結技術への要求がより一層高まっているのです。我々は、こうした時代の要請を確実に受け止め、「PLAN 2014」の実現に向け、引き続き全力で取り組んでまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、長期的な視野に立ち、当社グループの成長を見守ってくださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

中期経営ビジョン・戦略 PLAN2014



経営スローガン・チャレンジ35



特集 Q&A

株主の皆様からいただいたアンケートのご質問のなかから、最も多かったご質問にお答えいたします。

Q. 今後の注力分野について教えてください

A. 環境分野。特に、太陽光発電を設置するための、「ダイレクトスラブ工法」と「ダイレクトアース工法」です。

コンクリート陸屋根に

ダイレクトスラブ工法〈あと基礎アンカー〉

建物への負担を減らし、効率の良い太陽光発電パネル設置ができます



太陽光発電システム(以下・太陽光パネル)に対する需要は急速に増していますが、ビル・マンションの屋上(陸屋根)への太陽光パネル設置に際しては、従来の工法ではコンクリート基礎を増設するため、工程・工期、コストがかかるほか、防水処理との兼ね合いや建物への荷重負担などが課題となっています。

当社の新製品である「あと基礎アンカー」を用いたダイレクトスラブ工法は、アンカー自体が基礎部となり、太陽光パネルの架台を固定し支えるため、従来工法で不可欠となっていたコンクリート基礎工事が不要になり、大幅な工事期間の短縮を実現しています。

従来の工法との比較

設置レイアウト

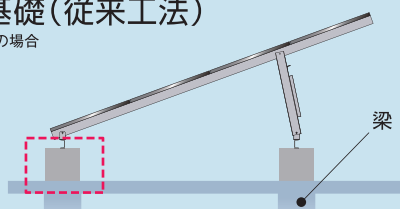
重量

防水処理

工期

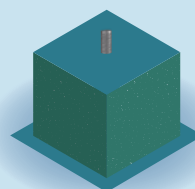
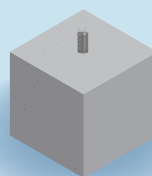
コンクリート製基礎(従来工法)

※寸法：H400×W400×D400mmの場合



コンクリート製基礎の場合、重量があるため梁の上に設置しなければ構造上難しい

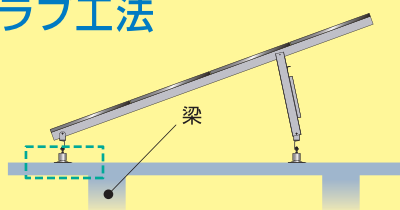
約160kg/個



(最大)
38日

大幅短縮

ダイレクトスラブ工法

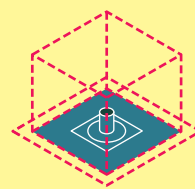


軽量なので、梁の上でなくても設置が可能
→ レイアウト自由度が高い

約2kg/個



大幅な軽量化



大幅な効率化

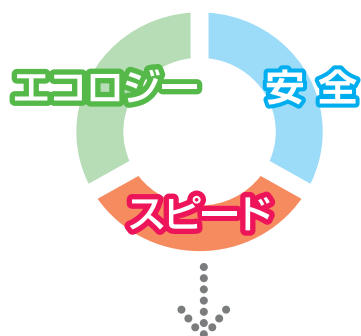
2日

※ダイレクトとは対象母材に直接打ち込む、という意味です。
コンクリート基礎を用いないので、環境負荷を低減します。

野立てソーラー発電に

ダイレクトアース工法〈グランドスクリュー〉

ダイレクトアース
3つの価値



「脱コンクリート基礎」で
リデュース・リユース

- ▶ **リデュース**
コンクリート打設で発生するLCCO₂を削減
- ▶ **リユース**
撤去・原状復帰・再利用が可能

安全・安心

安全な設計のために、
事前に現地での
引張試験が可能



効率的な施工

- ▶ コンクリート打設不要だから
工程簡略化
- ▶ 施工後すぐに架台設置可能だから
工期短縮



ダイレクトアース工法による太陽光パネル設置

「ダイレクトアース工法」は、1～1.2メートル長の「グランドスクリュー」を専用施工ツールを用いて直接大地にねじ込み、基礎作りを行い、太陽光パネルの架台を設置します。

従来のコンクリート基礎を用いた施工方法と比べ、掘削、残土処理、コンクリート養生、型枠の廃材処理が不要で、

環境負荷の低減を図ることができます。

また、あと基礎アンカー同様、施工工程を大幅に短縮でき、効率的な施工を行うことができる特長があります。更に、独自開発の強度確認試験機で、事前に強度確認が行えるなど、これまでの工法と比較すると環境(エコロジー)、スピード、安全に配慮した工法といえます。

さらにご理解いただくために

当社ホームページ「製品情報」のコーナーでは、「ダイレクトスラブ工法」と「ダイレクトアース工法」について、施工シーンを動画でご覧いただくことができます。従来の工法とは異なる、当社の技術をぜひ、ご覧下さい。

また、「太陽光発電システム施工展」に出展した際の様子も、併せてご覧下さい。



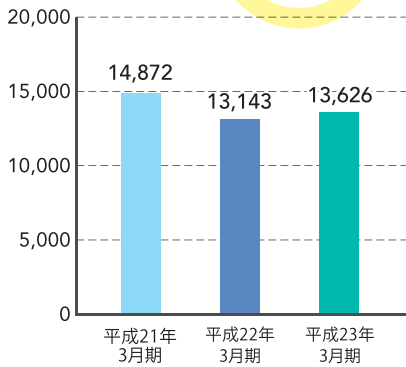
URL <https://www.sanko-techno.co.jp/products/atokiso.php>

財務ハイライト (連結)

当社グループは、中期経営計画の初年度として、「安全・安心・環境」のキーワードのもと、新製品の開発・販売に注力しました。当連結会計年度における売上高は13,626百万円(前連結会計年度比3.7%増)となりました。販売の増加に加えコスト削減も寄与したことで、経常利益は489百万円(同178.7%増)、当期純利益は260百万円(同148.4%増)と収益は大幅に改善し、増収増益を確保しました。

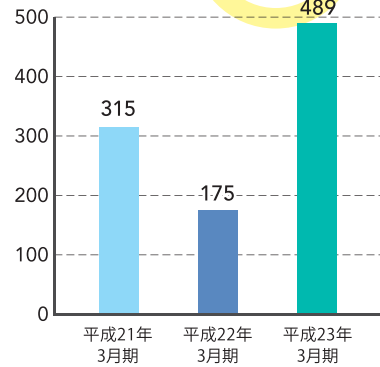
●売上高 (単位:百万円)

前年同期比
3.7%増



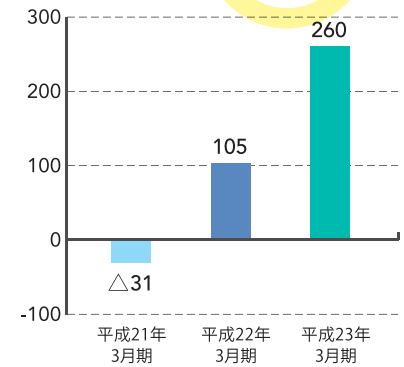
●経常利益 (単位:百万円)

前年同期比
178.7%増

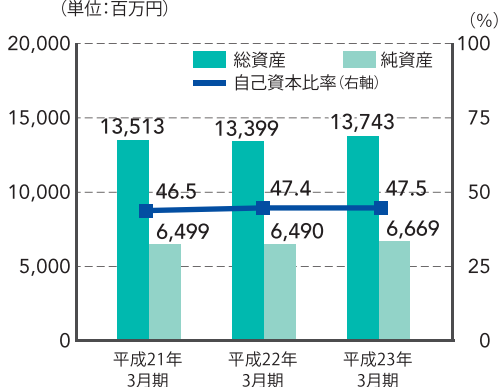


●当期純利益 (単位:百万円)

前年同期比
148.4%増



●総資産・純資産 / 自己資本比率 (単位:百万円)

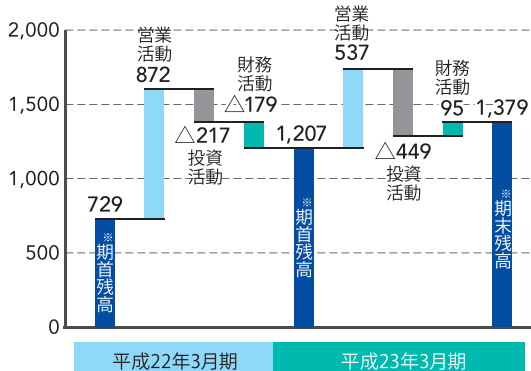


●通期業績(要約)

(当期:平成22年4月1日～平成23年3月31日 前期:平成21年4月1日～平成22年3月31日)
(百万円)

科目	当 期	前 期	増 減
売 上 高	13,626	13,143	3.7%
営 業 利 益	518	175	196.3%
経 常 利 益	489	175	178.7%
当期純利益	260	105	148.4%

●キャッシュフロー状況 (単位:百万円)



※現金及び現金同等物

●貸借対照表(要約)

(当期:平成22年4月1日～平成23年3月31日 前期:平成21年4月1日～平成22年3月31日)
(百万円)

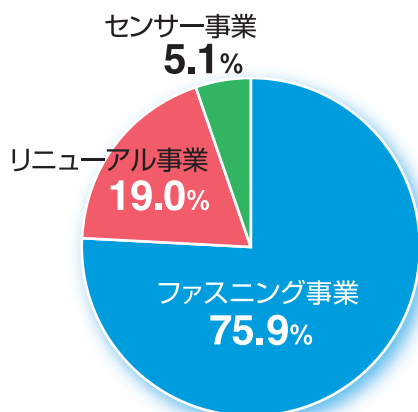
科目	当期末	前期末	増 減
流 動 資 産	7,400	7,225	2.4%
固 定 資 産	6,343	6,174	2.7%
資 産 合 計	13,743	13,399	2.6%
科目	当 期	前 期	増 減
流 動 負 債	5,718	5,539	3.2%
固 定 負 債	1,355	1,368	△1.0%
純 資 産	6,669	6,490	2.8%
負債・純資産合計	13,743	13,399	2.6%

セグメント別 事業概況

〈第47期連結累計期間〉

- 〈ファスニング事業〉主力商品である金属系アンカー、接着系アンカーの販売数量が増加しましたが、震災により物流面での影響を受けました。
- 〈リニューアル事業〉工事関連は伸び悩みましたが、外壁補修製品、FRP製品、太陽光発電製品が好調に推移しました。
- 〈センサー事業〉一部法改正の施行に伴う特需によりアルコール測定器の売上が大きく寄与しました。

●セグメント別売上高構成 (平成23年3月期)



※セグメント間取引を含んでいるため、合計額は連結売上高と一致していません。

※当連結会計期間(平成23年3月期)より、セグメント区分を変更したため、各セグメントの前期以前の数値は記載していません。

ファスニング事業

あと施工アンカー、建材資材の留め具であるファスナーなどの締結資材やドリルビット、電動油圧工具等を製造・販売しています。

●売上高
10,419 百万円
●セグメント利益
475 百万円



リニューアル事業

あと施工アンカーをはじめとする締結技術を応用し、各種構造物を守る工法を開発、耐震補強等に活用しています。

●売上高
2,612 百万円
●セグメント利益
11 百万円



センサー事業

車両の表示板用や工事・事故の表示板用、観測機向けなどの電子プリント基板や各種測定器の生産・販売を行っています。

●売上高
695 百万円
●セグメント利益
31 百万円



トピックス 各種展示会にて新製品をPRしました

国際物流総合展 2010

(2010年9月14日-17日/東京ビッグサイト)



国際物流総合展は、2年に1度開催される物流業界最大の展示会で、当社ではセンサー事業が業務用アルコール測定器を出展しました。2011年5月の法制化を受け、多くの来場者の関心を集めました。

第2回 太陽光発電システム施工展 ～PVシステム EXPO～

(2011年3月2日-4日/東京ビッグサイト)



PV EXPOは太陽光発電業界における日本最大の国際商談展示会です。当社は「第2回太陽光発電システム施工展」にダイレクトスラブ工法・ダイレクトアース工法ならびにソーラー架台システムを出展しました。

展示会の模様はHPでご覧いただけます。詳細はP4参照。

Bauma China 2010

(2010年11月23日-26日/上海新国際博覧センター)



Bauma Chinaは2年に1度の開催で、建設機械・機材産業界におけるアジア最大の国際展示会です。今回、サンコーテクノグループとして、鉄筋カッター・鉄筋ベンダー、テクノテスターシリーズなどを出展しました。

会社概要

(平成23年3月31日現在)

商 号	サンコーテクノ株式会社
設 立	1964年5月15日
資 本	768百万円
社 員	317名(連結556名)
所 在 地	千葉県流山市東初石六丁目183番1 TEL 04-7178-5535 FAX 04-7178-5557
取 引 銀 行	みずほ銀行 りそな銀行 千葉銀行 京葉銀行
事 業 内 容	建設資材(あと施工アンカー・ドリル・ファスナー等)、 複合材、防水材、各種測定器の企画開発・ 製造・販売・施工及び輸出入

役員

取締役会長	洞 下 実
代表取締役社長	洞 下 英 人
取締役副社長	佐 藤 静 男
常務取締役	洞 下 正 人
常務取締役	八 谷 剛
取 締 役	上 石 茂 行
取 締 役	増 田 誠 次
取 締 役	佐 藤 靖 晴
監 査 役	甲 斐 常 敏
監 査 役	鈴 木 英 雄
監 査 役	塙 善 光

関連会社

連結子会社

SANKO FASTEM (THAILAND) LTD.
三幸商事顧問股份有限公司
株式会社IKK
アイエスエム・インタナショナル株式会社
株式会社スイコー

持分法適用関連会社

株式会社サンオー

持分法非適用関連会社

株式会社イーオプティマイズ

株式の状況

(平成23年3月31日現在)

発行可能株式総数	3,500,000株
発行済株式の総数	2,186,352株
株主数	736名

大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
洞下 実	248	11.35
東京中小企業投資育成株式会社	180	8.23
濱中ナット販売株式会社	179	8.21
有限会社サンワールド	168	7.68
サンコーテクノ社員持株会	145	6.67
武藤 昭二	93	4.27
新井 栄	68	3.13
洞下 照夫	53	2.45
株式会社みずほ銀行	44	2.03
佐久間 菊子	41	1.91

(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。

2. 当社は自己株式(151千株)を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	事業年度末日の翌日から3か月以内
基準日	3月31日
配当基準日	3月31日、9月30日(中間配当を行う場合)
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公 告 の 方 法	電子公告により当社ホームページ (http://www.sanko-techno.co.jp/)に掲載 いたします。ただし、事故、その他やむを得ない事 由によって電子公告をする事ができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。

お問い合わせ先

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物 送付先		〒168-8507 東京都杉並区 和泉二丁目8番4号
電話お問い 合わせ先	お取引の証券会社になります。	0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 みずほインベスターズ証券 株式会社本店及び全国各支店
ご 注 意	未払配当金の支払、支払明細 発行については右の「特別口 座の場合」の郵便物送付先・電 話お問い合わせ先・お取扱店を ご利用ください。	単元未満株式の買取・買増以外 の株式売買はできません。電子 化前に名義書換を失念してお 手元に他人名義の株券がある 場合は至急ご連絡ください。

Web Information

当社のホームページでは株主・投資家の皆さまに対して、企業
情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示をしており
ます。当社をより理解していただくためにも、ぜひアクセスを
お願いいたします。



TOP画面

IR情報画面

<http://www.sanko-techno.co.jp/>

サンコーテクノ株式会社

〒270-0114 千葉県流山市東初石六丁目183番1



この冊子は環境保全のため、
植物インキとFSC認証紙を
使用しています。